

りそな 経済フラッシュ

(日本4-6月期GDP1次速報値)

◎注意事項をよくお読み下さい

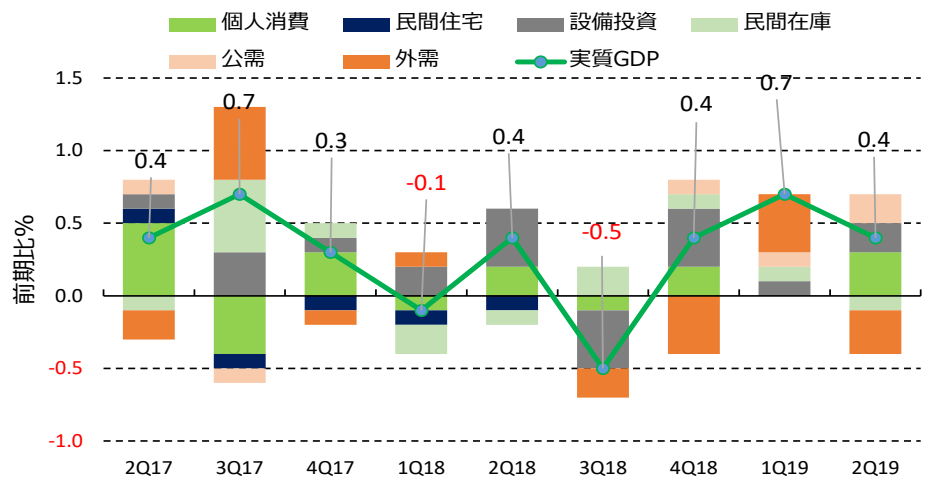


〇概況

- ◆4-6月期GDPは前期比+0.4%と3四半期連続プラス成長で中身も好内容
- ◆個人消費、設備投資が堅調となったほか、公共投資も成長を底上げ
- ◆GDPデフレーターは前年同期比+0.4%

- ✓ 2019年4-6月期実質GDP1次速報値は、前期比+0.4%（年率+1.8%）と市場予想（前期比+0.1%、年率+0.5%）を上回り、3四半期連続のプラス成長となった。**個人消費が前期比+0.6%と堅調。設備投資も同+1.5%と市場予想（+0.8%）を上回る結果で成長率を押し上げた。また、公表投資も前期比+1.0%と成長を底上げした。**
- ✓ 外需は輸入が前期の反動もあり増加（GDP押下げに寄与）した一方で、輸出環境は引き続き停滞しておりマイナスに寄与。一方で内需が成長を支える形で、**四半期単体の結果としては素直に好内容といえる。**
- ✓ 個人消費は自動車販売が好調だったことや10連休の消費押し上げ効果もプラスに推移したとみられる。先行きは7-9月は消費増税前の駆け込みにより一定の押し上げ効果があるものの、増税後の反動減と消費マインドの鈍化には注意が必要だろう。
- ✓ 設備投資も堅調な結果。日銀短観の設備投資計画でも今期は強い計画となっており、足元の外需の伸び悩みは一部に影響を及ぼしているものの、国内経済全体の投資マインドに波及している訳ではないだろう。
- ✓ 公共投資は2018年度補正予算による国土強靱化等の景気下支え策の効果により前期に続き大きな増加となった。
- ✓ 海外経済の弱さや米中摩擦等による先行き不透明感から輸出は伸び悩み、2四半期連続の前期比マイナスとなっている。

【実質GDP成長率 需要項目別（前期比）】



前期比% (前期比寄与度%opt)	2018			2019	
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
実質GDP	0.4	-0.5	0.4	0.7	0.4
(民需)	(0.5)	(-0.3)	(0.7)	(0.2)	(0.5)
個人消費	0.4	-0.1	0.4	0.1	0.6
民間住宅	-1.9	0.8	1.3	0.6	0.2
設備投資	2.5	-2.6	2.7	0.4	1.5
(民間在庫)	(-0.1)	(0.2)	(0.1)	(0.1)	(-0.1)
(公需)	(0.0)	(0.0)	(0.1)	(0.1)	(0.2)
政府消費	0.1	0.2	0.7	-0.1	0.9
公共投資	-1.2	-1.8	-1.3	1.4	1.0
(公的在庫)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)
(外需)	(0.0)	(-0.2)	(-0.4)	(0.4)	(-0.3)
輸出	0.8	-2.1	1.2	-2.0	-0.1
輸入	0.8	-1.2	3.6	-4.3	1.6

【出所】内閣府、Bloomberg、IN情報センター

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。